

コシヒカリの高温対策

コシヒカリにおける登熟期の高温障害による品質低下が発生する気温や生育条件を明らかにしました。

○気温条件

- ①乳白粒率は、出穂後20日間平均最低気温（以下最低気温+20）が高いと発生多くなり、乳白粒率を6%以下にするには、最低気温+20を22.5℃以下にする必要があります。（図1）
- ②品質向上対策として5月下旬植えを推進してきましたが、近年は遅植しても最低気温が低くならない年が多くなっています。

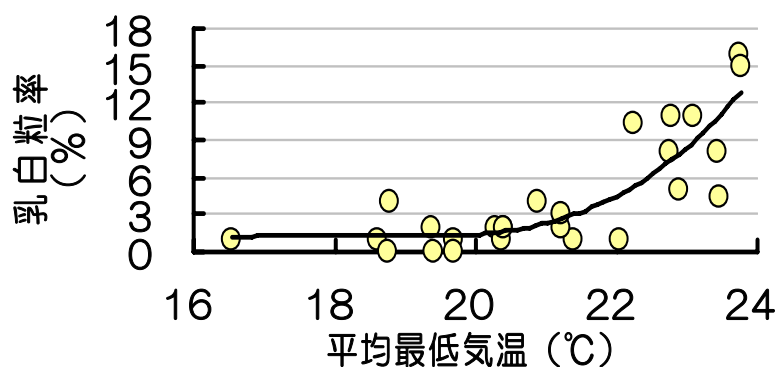


図1 出穂後20日間平均最低気温と乳白粒率(1989~2001年, 出雲市・赤名)

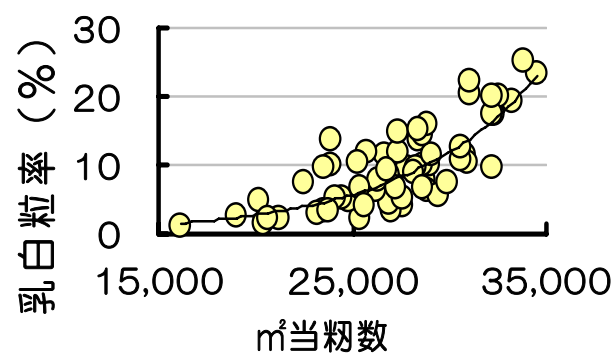


図2 粒数と乳白粒率(1999~2001年)

○生育条件

- ①乳白粒は、粒数が多くなると高夜温（最低気温+20が23℃）では急増するため、高品質を保つには㎡当粒数は25,000粒程度（1株穂数18本、1穂粒数75粒）が上限です。（図2）
- ②白未熟粒の発生抑制には、出穂前後の葉色値を33~35程度で推移するよう施肥管理に努めることが大切です。（図3、4）

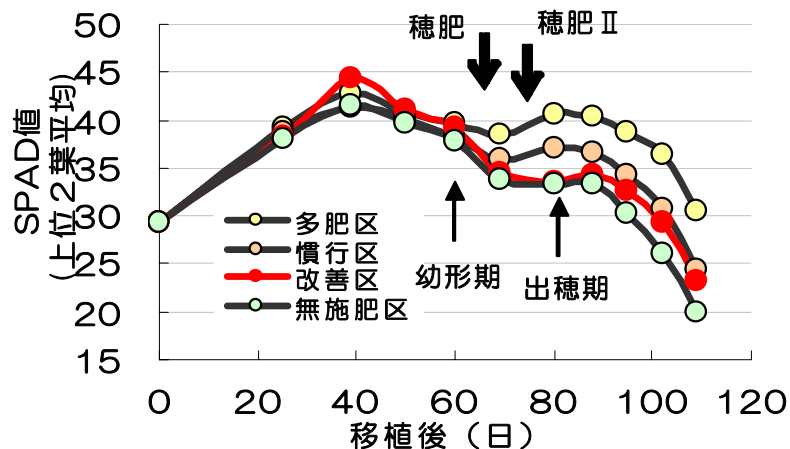


図3 葉色値の推移(2005年)

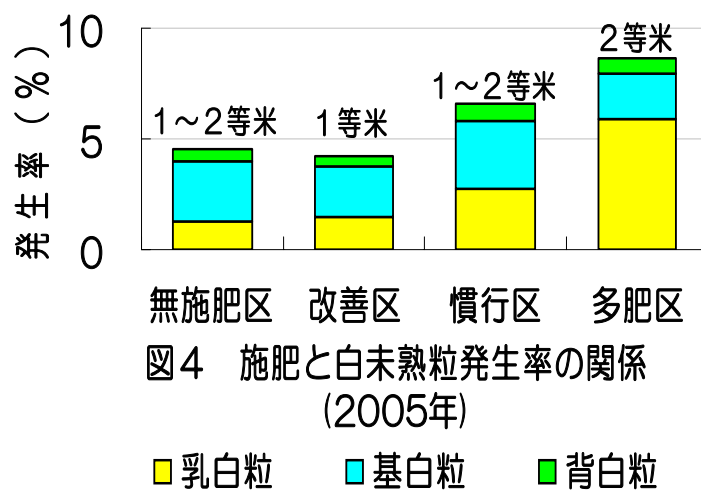


図4 施肥と白未熟粒発生率の関係(2005年)

■ 乳白粒 ■ 基白粒 ■ 背白粒